学校番号	T3029

令和８年度　数学科

教科	数学科	科目	数学Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	改訂版　新　高校の数学Ⅰ（数研出版）						
副教材等	電卓を使用						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協同で考える活動を行います。
・「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連の課程で、自分の考えを発表したり、議論したりする活動を行います。
・課題学習を行いますので筆記用具と教科書を忘れずに持ってきてください。
・課題は授業後に提出してもらいます。休んだ場合も提出してもらいますので最後まであきらめずに取り組みましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
　数と式、データの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。
【思考力、判断力、表現力等】
　数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。
【学びに向かう力、人間性等】
　数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身につける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数と式、データの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身につける。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数と式、データの分析における数学的な見方や考え方を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前	第1章 第1節 数と式の計算	1．計算の基本	a: 正の数、負の数の加法、減法、乗法の計算ができる。分数の計算ができる。四則の混じった計算の優先順位にしたがって計算できる。 b: 四則が混じった計算の優先順位を正確に判断できる。 c: これからの学習の基礎となる数の計算方法に関心をもち、積極的に習得しようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 課題提出	課題提出 授業中の観察
		2．単項式と多項式	a: 文字を使った式で数量を表すことの必要性を理解している。 単項式や多項式、次数、同類項など式に関する用語を理解している。 多項式の同類項をまとめ、次数の大きい順に整理することができる。 b: ある数量について、文字を使った式で表現することができる。 c: 単項式、多項式とその整理の仕方に関心をもち、考察しようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 課題提出	課題提出 授業中の観察
		3．多項式の加法と減法	a: 多項式の加法、減法の計算ができる。	定期考査 小テスト		
		4．多項式の乗法	a: 指数法則を理解し、単項式の乗法の計算ができる。 指数法則や分配法則を用いて、多項式の乗法の計算ができる。 b: 式の展開と分配法則の関係を考察することができる。 c: 多項式の乗法には、数の場合と同様に分配法則が使えることに関心をもち、考察しようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 課題提出	課題提出 授業中の観察

前	第1章 第1節 数と式の計算第	5．展開の公式	a: 展開の公式を利用できる。 b: 展開の公式の導き方を、面積図を使って考察することができる。	定期考査 小テスト	定期考査 課題提出	
		6．因数分解	a: 共通因数をみつけ、共通因数のくくり出しができる。 因数分解の公式を利用できる。 b: たすき掛けの仕組みを理解している。 c: 展開と因数分解の関係に着目し、因数分解の検算に展開を利用しようとする態度がある。	定期考査 小テスト	定期考査 課題提出	課題提出 授業中の観察
		7．展開、因数分解の工夫	a: 文字のおきかえを利用して、展開や因数分解を行うことができる b: 文字をおきかえることで、展開や因数分解の公式を適用できるようになることを見通せる。 c: おきかえなどの工夫によって、よりよい方法を考察しようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 課題提出	課題提出 授業中の観察
		8．根号を含む式の計算	a: 平方根の意味を理解している。根号を含む式の加法、減法、乗法の計算ができる。分母を有理化することができる。 b: 根号を含む式の乗法の計算に、展開の公式を適用することができる。	定期考査 小テスト	定期考査 課題提出	

後	第1章 第2節 1次不等式	1．1次方程式	a:方程式における解の意味を理解し、1次方程式を解くことができる。 b:日常の問題を解決するのに、1次方程式を活用することができる。 c: 2 次方程式の必要性と意味を考えようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 課題提出	課題提出 授業中の観察
		2．2次方程式	a:方程式における解の意味を理解し、因数分解を利用して2次方程式を解くことができる。 解の公式を利用して 2 次方程式を解くことができる。 b:日常の問題を解決するのに、2次方程式を活用することができる。 c :2 次方程式の必要性と意味を考えようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 課題提出	課題提出 授業中の観察
	第5章 データの分析	1．データの整理	a: 階級、度数などの用語を理解し、データを度数分布表にまとめ、ヒストグラムをかくことができる。データを度数分布表やヒストグラムに表すことのよさを理解している。 c: データを整理して全体の傾向を考察しようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 課題提出	課題提出 授業中の観察
		2．データの代表値	a: 最頻値、中央値、平均値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。 b: どの代表値を用いるのが適切なのかが場面によって変わってくることを理解している。 c: データの代表値から、その特性や傾向などを考察しようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 課題提出	課題提出 授業中の観察

後	第5章 データの分析	3．データの散らばり	a: 四分位数の定義を理解し、四分位数を求めることができる。 四分位範囲、四分位偏差の定義やその意味を理解し、それらを求めることができる。 箱ひげ図をかくことができる。 外れ値について理解している。 分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、分散、標準偏差を求めることができる。 b: 四分位範囲や箱ひげ図をもとに、中央値の周りのデータの散らばり具合を比較することができる。 標準偏差をもとに、平均値の周りのデータの散らばり具合を比較することができる。 c: データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察しようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 課題提出	課題提出 授業中の観察
		4．データの相関	a: 散布図を作成することができる。 相関係数の定義とその意味を理解し、相関係数を計算することができる。 相関係数と散布図の関連を理解している。 b: 散布図をもとに、データの相関を考察することができる。 相関係数の数値からデータの相関を考察することができる。 c: 相関係数と散布図の関連に関心をもち、考察しようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 課題提出	課題提出 授業中の観察
		5．仮説検定の考え方	a: 仮説検定の考え方を理解している。 b: 仮説検定の考え方を用いて、ある事柄が正しいかどうかを判断することができる。	定期考査 小テスト	定期考査 課題提出	課題提出 授業中の観察

			c: 身近な事柄において、仮説検定の考え方を活用して判断しようとする態度がある。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度